

青森県水産増殖センター

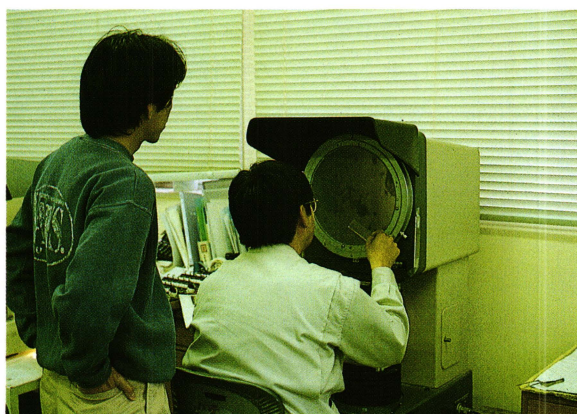
センターだより



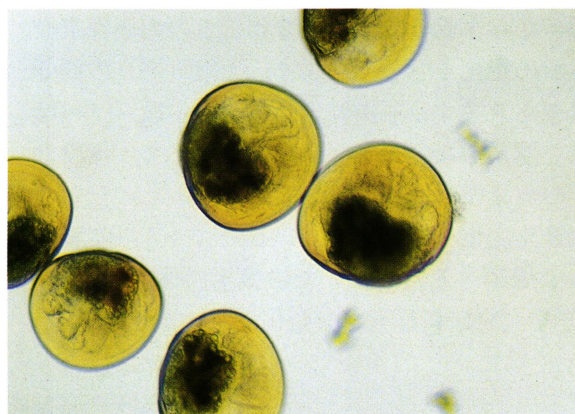
母貝調査



採水された海水の前処理



ホタテガイラーバの計数



ホタテガイラーバ

ホタテガイラーバ調査が始まる

平成10年のホタテガイラーバ調査が3月30日から始まりました。毎週月曜日に陸奥湾内50地点でサンプルを採取し、各地から集められたデータは直ちに処理された後に、木曜日には「ホタテガイ採苗速報」として関係漁協などに情報を送っています。今年は産卵が遅れましたので、稚貝の付着も長期化する見込みです。



目次

漁業者は減っていくか	2
所長 青山 禎 夫	
平成10年度事業計画と分担	
漁場部	2
ほたて貝部	3

貝類部	3
魚類部	4
海藻部	4
新年度加入メンバーより一言	5
平成10年度水産増殖センター職員配置	6

活彩あおもり





漁業者は減っていくか

所長 青山 禎夫

平成10年度、当所では新規に3課題の試験研究をスタートさせ、作り育てる漁業の一層の展開を計りたいと考えております。3課題については各紹介記事をご覧ください。

さて標題についてですが、戦後漁村が賑わっていた昭和30年頃の漁業就業者数は70万人、現在（平成5年）の就業者数は30万人。漁村は過疎化が進み、高齢者の割合が高く若者が少ない、後継者が無く地域社会が活力を失っていくという声があります。なかには将来漁業従事者数はゼロになると予想する識者もおります。

本当にそうでしょうか。図をご覧ください。昭和38年から平成5年までの5年ごとの海面漁業経営体数の変化を示しています。上段（ア）の部分は農業を兼業する兼業経営体数を、中段（イ）は農業を兼業しない兼業経営体数、そして、下段は漁業の専業経営体数を表しています。

大きく変化（減少）しているのは（ア）の部分、即ち、農業を兼業していた漁業経営体であって、（イ）や（ウ）には大きな変化はありません。

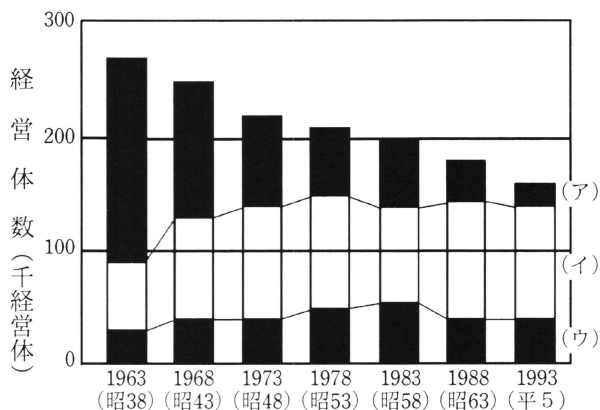


図 海面漁業個人経営体の推移

（ア）：農業を兼業する兼業経営体
（イ）：農業を兼業しない兼業経営体
（ウ）：漁業の専業経営体

資料：漁業センサス（1963年は世帯数）

将来に向けて漁業後継者を育てるためにはどうしたら良いでしょうか。一つの提言をします。

漁業地帯における地域産業の充実と、その産業との兼業の多様化を計りつつ就業機会を確保していくことが考えられます。地域振興計画の一貫として、漁業地帯の地域産業を再編することが重要だと思います。

ご意見、ご批判をいただければ幸いです。

平成10年度事業計画と分担

漁場部



部長 横山 勝幸

4月の人事異動で海草部長に異動された木村前部長に代わり漁場部長を勤めることになりました。

また、今井主任研究員が環境保健センターへ、松原主任研究員が水産物加工研究所へ転出し、環境保健センターから古川研究管理員が、漁政課から小泉技師が転入し、所内では木村主幹がほたて貝部へ、ほたて貝部から青山研究管理員が配置替えになりました。

試験船「なつどまり」では、須藤甲板員が漁業

管理課へ転出し、代わって本堂甲板員が転入しました。

主な事業と担当者は次のとおりです。

1. 浅海定線調査
2. 漁場保全対策推進調査

試験船「なつどまり」（濱田船長他4名乗組）により、前者は陸奥湾の海況の特徴・経年変化を把握する目的で水質を、後者は漁場環境の維持・保全を目的に水質、底質、底生生物を調査します。（古川研究管理員ほか）

3. 海況自動観測
4. 海況予報高度化技術確立調査

海況自動観測システム（ブイ・ロボット）による観測結果を用い、陸奥湾海況情報の発行、

ホタテガイ採苗速報等の基礎資料とするとともに、海況予報の精度向上を図ります。

(小泉技師ほか)

5. 二枚貝等貝毒安全対策事業

6. 貝毒成分・有害プランクトン等モニタリング事業

陸奥湾におけるホタテガイ及び青森県沿岸の二枚貝の毒化状況と原因プランクトン出現状況を把握し、二枚貝の安全性を確保するとともに、毒化予知法を検討します。

(三津谷研究管理員ほか)

ほたて貝部



部長 小坂 善信

4月の人事異動により、ほたて貝部もメンバーの交代がありました。漁業振興課に転出された小倉部長に代わり、漁業振興課から着任しました。また、青山研究管理員が漁場部へ、三戸総括主任研究が海草部へ配置換えとなり、その代わり木村主幹が漁場部から、吉田技師が海草部から配属になりました。留任の工藤総括主任研究員、川村技能技師ともどもよろしくお願いいたします。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1. ホタテガイ増養殖試験

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施します。

(吉田技師ほか)

2. ホタテガイ種苗の種苗性評価及び改善に関する研究

増養殖種苗の実態を調査するとともに、生化学的

な手法による評価を行い、良質な種苗を確保するために簡易で精度の高い評価手法を検討します。

3. 高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究

高品質ホタテガイ生産のために、育種技術の開発・実証試験、母貝・天然採苗管理法の検討等を行います。

(工藤総括主任研究員ほか)

4. 海面養殖業高度化事業

適正な養殖管理と良質貝の生産等によりホタテガイ養殖の高度化を図るための総合事業を実施しますが、センターでは陸奥湾2カ所で「ホタテ養殖ごよみ」に基づいて養殖実証試験を行います。

(工藤総括主任研究員ほか)

5. ホタテガイ増殖漁場評価試験

地まき増殖の生産回復に必要な各種要因を明らかにするとともに、放流種苗の育成管理方法を検討します。

(工藤総括主任研究員ほか)

6. ミネフジツボ養殖手法開発試験（新規）

ミネフジツボの採苗、育成技術及び養殖技術を開発し、ホタテガイ養殖の複合養殖化を図ることを目指します。

(川村技能技師)

貝類部



部長 須川 人志

4月の人事異動でアワビ担当の清藤技師が漁業管理課へ転出し、柳谷主任研究員が水産物加工研究所から転入しました。

貝類部のメンバーはベテランの天野総括主任研究員を加えた3名で本年度の業務を進めますので、よろしくお願いいたします。

貝類部の主な事業と担当は次のとおりです。

1. 磯根資源の初期生態解明に関する研究（アワビ）

アワビ資源の回復・増大を図るため、天然漁場での餌料環境、食害生物や競合生物の影響等を調べ、アワビ発生初期の減耗要因に焦点をあてた研究をする。

(柳谷主任研究員ほか)

2. 放流技術開発事業（アワビ）

アワビ放流漁場の生物構造を比較検討し逸散、成長に影響する要因を調べ、集約的な放流技術の開発を図る。

(天野総括主任研究員ほか)

3. マダカアワビ種苗生産技術開発試験

暖流系の大型アワビであるマダカアワビの種苗生産の可能性を、親貝の成熟促進と冬季の採苗技術に焦点を絞って検討する。

(天野総括主任研究員ほか)

4. カキ類増殖技術開発試験

カキ類の分布や成熟過程を調べると共に、日本海沿岸に生息するイワガキに焦点をあてた増殖対策を種苗生産の面から技術開発を図る。

(天野総括主任研究員ほか)

日本海沿岸の重要資源であるサザエについて、天然採苗及び種苗生産初期の着底直後の付着稚貝沖出しによる採苗技術を開発し、粗法的な栽培漁業の可能性を検討する。

(天野総括主任研究員ほか)

5. 重要貝類増殖試験（サザエ）

魚 類 部



部長 塩 垣 優

当部では、旧体制とまったく変わらず塩垣、兜森主研、松坂主研の3人体制です。非常勤職員に1

人異動がありました。

業務内容に若干変更がありました。

新規事業：陸奥湾生態系モニタリング調査

終了事業：資源管理型漁業推進総合対策事業

特定沿岸資源（蟹田町：トゲクリガニ）

その他は前年度同様マダラ、ホシガレイ、マコガレイ、クロソイ等の種苗生産技術開発研究、ヒラメ黒化防止技術開発試験、クロソイの養殖技術開発試験などの他、海産魚類の魚病防疫指導業務があります。

今年度の新規事業「陸奥湾生態系モニタリング調査」の概要を紹介しておきます。

近年、全国的に豊かな森が豊かな海を育てるを合言葉に「山に木を植える運動」が推進されています。本県でも民間主導で昨年度から実践されています。これらの効果については長い目で見なければ分かりませんので、現在の陸奥湾における栄養塩、鉄分、植物プランクトンから始まる海洋における生物生産のピラミッド構造について正確なデータを取っておき、将来においてその時点での評価を可能とすることを主眼とした調査が3年計画で始まります。地球環境保全問題とも絡んで、今後ますます海洋生物資源のモニタリングが重要視されている時代です。魚類部が最も苦手としているフィールド調査ですが人員不足の現状にあって、できる範囲でやっておこうとの心意気です。

海 草 部



部長 木 村 大

4月の人事異動により県立海洋学院に転出された加藤前部長に代わり漁場部から配置替えとなりました。

また、三戸総括主任研究員が吉田技師に代わり海草部に配置され、山内技師と3名で事業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

本年度の主な事業と担当者は次のとおりです。

1. バイテク種苗作出技術開発試験

日本海で藻場を形成するホンダワラ類などについて、組織培養手法で効率的な種苗作出培養条件を検討します。(山内技師ほか)

2. 海藻資源モニタリング調査

有用海藻の生育状況及び生育環境を調べ資源

変動について生物特性、海洋環境面から変動要因と予測方法を検討します。(木村部長ほか)

3. コンブ発生量の変動要因解明研究

コンブ目植物の群落変動のうち生育場所で生じる付着基質の占有に関する海藻種間の競争、植食動物による捕食、海洋環境の影響等を検討します。(三戸総括主任研究員ほか)

4. 電源立地地域温排水対策事業調査

前年度に引き続き、マコンブの水温等の環境変化とマコンブの再生産機構の関係を調査するとともに海藻の生育状況を調べます。

(大間：三戸総括主任研究員ほか)

(白糠：木村部長ほか)

5. エゴノリ養殖管理技術開発事業

前年度に引き続き、外海域での養殖試験を行い、養殖管理手法を検討します。

(山内技師ほか)

新年度加入メンバーより一言



■山 本 富士夫

4月の人事異動により、青森県立点字図書館から配置換えになりました。

青森県水産増殖センターは初めての勤務です。

漁業者に役立つセンターづくりをめざして鋭意努力して参りたいと思いますので、何分のご支援をお願いいたします。



■加 川 弘

4月の人事異動で管財課より水産増殖センターに勤務となりました。長年の県庁勤務ですが水産部は今回が初めてです。これまで魚は獲って食べるものと思っておりましたが今後は「つくり育てる漁業」推進の一助になるよう努めてまいりますのでよろしくお願いします。



■横 山 勝 幸

昨年の異動で内水面水産試験場へ替ったばかりでしたが、1年で戻ってまいりました。私は、水産増殖センター発足時（昭和43年4月）からの数少ないメンバーの1人ですが、漁場部の業務は初めての経験となります。

漁場部は、皆様お馴染みの海況自動観測装置（ブイ・ロボット）、試験船「なつどまり」や「貝毒」などの担当部でもありますので、よろしくお願いいたします。



■小 坂 善 信

1年でまたほたて貝部に出戻りとして戻ってきましたが、嫌われないようにしたいと思います。

ホタテガイ産業は既に成熟した産業となっていますので、試験研究機関としてお手伝いできることを考えていきたいと思います。



■古 川 章 子

初めての転勤、しかも畑違いの水産部ということでかなり戸惑っております。環境保健センターでの経験を少しでも生かして頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



■木 村 博 聲

昨年10月より、増殖センターにお世話になっております。ほたて貝部でがんばろうと思います。よろしくお願いいたします。



■柳 谷 智

水産増殖センター勤務は5年ぶり3度目となります。前回、勤務時は新築中でしたが、今は口の字型の巨大庁舎がドーンとそびえたち、人も設備も船も充実し、まさしく「活彩あおもり」です。この素晴らしい環境で仕事ができることを研究に活かし、成果を出したいと思います。



■小 泉 広 明

水産増殖センターには初めての勤務となります。漁場部にてパイロボを担当させて頂きますが、初めての経験ですので、皆様のご指導を頂きながらがんばって行きたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。



■本 堂 洋 一

調査船なつどまりには2度目の勤務となりますが、皆さんの足を引っばらない様頑張りますのでよろしくお願い致します。



■浜 田 知 子

昨年12月から、増殖センターに勤務しています。昨年度は総務室で仕事をして、今年度は魚類部でマダラ飼育のお手伝いとかをしています。体を動かすことが好きなので、はりきっています。

平成10年度水産増殖センター職員配置

